



営農NEWS



ハクサイの主な病害虫の薬剤防除

ハクサイの生育中には、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、コナガ、タマナギンウワバなどチョウ目害虫やカブラハバチなどによる食害を生じたり、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などを発生します。これらの対策として、生育の初中期を対象に、ベリマークSCやジュリボフロアブルなどを育苗期後半に灌注処理、ジェイエース粒剤などを定植時に植穴処理などが行われており、薬剤によって処理後2週間～1か月くらいの防除効果が期待できます。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかず防除が遅れてになってしまいますと、幼虫の食害などによる著しい商品価値の低下や減収を招いてしまいます。

病害虫発生予報9月号(県病害虫防除所)によりますと、9月におけるハスモンヨトウの発生量は平年並～やや多く、オオタバコガは平年並と予想されていますので、今後とも常に作物を注意して観察し、害虫の発生初期における薬剤防除を徹底してください。

一方、向こう1カ月の長期予報(9月22日発表)によりますと、天気は数日の周期で変わると予想されています。今年は8月後半から9月にかけて集中して台風の襲来があり、強風や降雨が続きました。このため、べと病や白斑病、軟腐病、黒斑細菌病、黒斑病など各種病害の発生しやすい圃場環境が続いており、これからも病害の発生には十分な注意が必要となります。

病害虫が発生した場合には、下記を参考に、早めに薬剤防除を行って被害の抑制に努めてください。

表1 ハクサイ害虫の本圃における主な防除薬剤(平成28年9月26日現在)

薬 剤 名	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	コナガ	タマナギンウワバ	カブラハバチ	アブラムシ類
アニキ乳剤	○		○	○		○	
プレオフロアブル	○	○		○			
ファルコンフロアブル	○	○					
アクセルフロアブル	○	○	○	○		○	
ディアナSC	○	○	○	○	○(ウバ類)		
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○			
コテツフロアブル	○	○		○		○	
アタブロン乳剤	○	○	○	○	○		
ラービフロアブル	○	○	○		○		
サイアノックス乳剤	○	○		○	○		○
スカウト乳剤	○	○		○	○		○
ハチハチフロアブル	○			○			○
スタークル顆粒水溶剤							○
ウララDF							○

注) コナガは殺虫剤抵抗性が発現しやすく、現在、ジアミド系剤(フェニックス顆粒水和剤など)でも殺虫効果の低下した事例が見られます。この場合は、他系統の薬剤で対応してください。

表2 ハクサイ病害の主な防除薬剤(平成28年9月26日現在)

薬 剤 名	べと病	白斑病	軟腐病	黒斑細菌病	黒斑病
ダコニール1000	○	○			○
ペンコゼブ水和剤	○	○			○
オーソサイド水和剤80	○	○			○
ストロビーフロアブル	○	○			○
プロポーズ顆粒水和剤	○	○			○
ランマンフロアブル	○				
ホライズンドライフフロアブル	○				
ロブラール水和剤		○			○
バリダシン液剤5			○	○	
カセット水和剤			○	○	
スターナ水和剤			○	○	
アグリマイシンー100			○	○	
Zボルドー	○		○	○	

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040